

学校評価

2020 年度

自己評価報告書
学校関係者評価報告書

2021 年 2 月 10 日

学校法人東京観光専門学校

目 次

1. 学校の理念、教育目標	1	(10) 社会貢献・地域貢献	13
2. 評価項目別取り組み状況	2	(11) 国際交流	14
3. (1) 教育理念・目的	3		
(2) 学校運営	4		
(3) 教育活動	5		
(4) 学修成果	7		
(5) 学生支援	8		
(6) 教育環境	9		
(7) 生徒募集	10		
(8) 財務	11		
(9) 法令の遵守	12		

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>実社会に通用する＝仕事に就き、業界に輝く『人財』の育成</p>	<ol style="list-style-type: none">1. ビジネスマナーの徹底教育2. インプットしたことをアウトプットし、アウトカム（教育効果・成果）を上げるカリキュラムの実施3. 産学共同、イベントの推進・拡大

2 評価項目別取組状況

(1) 教育理念・目的

評価項目	評定	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	<p>教育理念、教育目的、人材育成は学校教育の重要な柱であり、学生ハンドブック、教員マニュアル、さらに入学式、オリエンテーション、研修会等、様々な機会を通じ、学生、教職員、保護者に対し、周知を図っている。2020年秋期より学務広報にて高校訪問を強化、あわせて教育理念、教育目的、人材育成の周知徹底も強化されている。</p> <p>また平成26年度より各学科にて教育課程編成委員会を開催しており、業界の意向を踏まえたシラバスの策定ならびに産学共同に取り組むことで、各業界のニーズに合わせた人材育成を図っている。</p>	各学科の輩出先となる業界が求める人材像は時代と共に変化していくため、常に業界との連携を密にし、情報を得よう努めなければならない。	教育課程編成委員の見直しをしていくことで、最新の情報を得ていく。	
□社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4				
□理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが、学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	4		輩出先の業界とのパイプに比べ、保護者との連携がやや課題か。	業界 EXPO や体験授業などへの取り込みを図る。	
□学科の教育目標、育成人材は、学科に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4		上記第一、第二項目に同じ。	特になし。	

評価項目は、文科省の基準をベースに学校単位で定めるものです。

上記「評定」は自己評価によるもので、内容は以下のとおりです。

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが必要である。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1 まったく対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	評定	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	業界で活躍する卒業生の動向を捉え、業界の進む方向性など、タイムリーな情報を得ている。	内定を得た後のモチベーションに問題があり、後期の授業のあり方を再考する必要がある。 留学については、ニューヨークの CIA との連携を模索中。	入学前に策定される 5 期単位表の変更が必須の場合のみ、授業科目名の変更を学科長会議等で検討し、やむを得ないとの結論に至った場合、学生に周知徹底したうえで、本来とは異なる運用を行っている。内定後のモチベーションの低下への対応として業界に必要な資格取得を推奨する。	
□運営方針に沿ったが事業計画策定されているか	4				
□教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	教育活動に関する情報公開については、職業実践専門課程の申請に伴い、平成 27 年度よりホームページに掲載し、広く一般に公開している。	特になし。	特になし。	
□情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	台風や交通機関の運休にともなう学校の対応などを、学生個々に事前に配信する措置をとっている。学生の出席や成績をシステムで管理して情報のアップデートと共有ができる体制をとっている。	学生への配信を徹底するに伴い、個人情報の保護の観点からオンライン情報システム上のセキュリティの徹底をはかる必要がある。担任活動に活かせる学生の顧客管理化を進める必要がある。	個人情報保護の観点から Gmail のクラウドサービス化も検討中。入学前の募集から卒業までシステム統合ができることが課題であり、システム統合による解決を検討する。	

(3) 教育活動

評価項目	評定	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	職業実践専門課程への取り組み効果として、各学科で行う教育課程編成委員会で4期単位表の見直しが図られるようになり、インターンシップを含めたカリキュラムが業界の視点から俯瞰できるようになった。	授業評価の実施および評価体制のひとつとして、学生によるアンケートを実施しているが、アンケートをもとに設備投資など環境整備には活用しているが、対授業という面ではこの評価項目の見直しや、結果のフィードバックの方法に検討の余地がある。	教育課程編成委員会等を含め、検討を図る。	
□教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確か	4	学習時間は4期単位表ならびに年間スケジュールの検討・作成過程で十分考慮され、確保されている。到達目標についても、各科目シラバスで明確にしている。			
□学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	A0 プレスクールを含めた5期の観点からシラバスを策定している。	原状では特になし。	左記に同じ。	
□キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	例えば傷害保険、ビジネスマナー、英語、救命講習など、教育課程編成委員会で出された意見を取り入れてカリキュラムを編成している。	社会貢献活動に対する取り組みについて、具体的な運用方法（単位設定、ポイント制等を含め）を検討すべき。	左記に同じ。	
□関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4				

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・演習等）が体系的に位置づけられているか	4	インターンシップ等は継続的に実施できており、実践的な学びを提供できている。そうしたなかで業務提携に至る企業もある。卒業後、3年以内に退社する社員もいることから、当校でのインターンは早期退社の防止に効果がある。	現状では特になし。	左記に同じ。	
□授業評価の実施・評価体制はあるか	4	前頁でも触れたが、学生アンケートを実施している。	活用方法に検討の余地あり。	教育課程編成委員会等を含め、検討を図る。	
□職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会での意見ならびに評価をいただいている。	職業実践専門課程を経て卒業した卒業生の意見等も取り入れていきたい。	教育課程編成委員会等を含め、検討を図る。	
□資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	業界で必要と思われる資格試験を選定し、授業で学べるよう配慮している。また、当該団体から認定校の指定をいただいている。	現状では特になし。	左記に同じ。	
□人材育成目標に向け授業を行う事が出来る要件を備えた教員を確保しているか	4				
□関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	定期的な学校内研修等に対応している。	LGBTQ に対する取組みが今後必要なのではないか。	LGBTQ に対しては勉強会が必要	
□職員の能力開発のための研修等が行われているか	4				

(4) 学修成果

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□就職率の向上が図られているか	4	クラス担任と就職担任を設け、学生が安心して就職に取り組めるよう配慮している。就職率向上にむけて積極的な営業を行っている。	○留学生の増加ならびに学生の多様化が顕著であり、学生個々の意欲やレベルに合わせた運営方法の検討が必要。 ○五輪後の業界の動向や、サービス業における AI の進出といった就職におけるマイナス面を補うには、学生の質が問われてくるのではないか。	ITスキルを醸成するカリキュラムや、サービススキルと IT スキルをつなぐビジネススキルを育成するカリキュラムも必要である。	
□資格取得率の向上が図られているか	4	授業のなかで資格が学べるようシラバスを策定している。2019 年度から、より就職に強い資格を重視し、学習しやすい環境を整えたカリキュラムに変更した。			
□退学率の低減が図られているか	4	学生サービスチームにより、補填、保護者への連絡、担任活動のフォローなどを行っている。	現状どおり。		
□卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	4	学務広報を中心に一部の卒業生については把握できている。業界内でスキルアップのための転職もある。常に OB とは関りをもつようにしており、転職情報を得るだけでなく、業界の最新情報も得ている。	原状では特になし。	左記に同じ。	
□卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4				

(5) 学生支援

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	担任制度を設けており、就職についても担任と就職情報センターと職員と連携して指導にあたっている。	就職希望率の向上や就職先の企業内容についての検討も引き続き必要だろう。	学生の自主的学習をサポートできるようなスペースが必要と思われる。	
□学生相談に関する体制は整備されているか	4	週3回「何でも相談室」を運営し、カウンセリングを実施している。	相談室に行きにくいとの声がある。利用頻度を上げていきたい。	授業等でのインフォメーションを図り、カウンセラーの顔と名前を学生に周知させる。	
□学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学内の制度としては、日本人には特待生を設け、留学生に対しては学費の減免を行っている。	学生の現状に合わせたきめの細かな運営方法が必要かと思われる。	要検討	
□学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	健康診断は基準通り実施している。体力増進の一環から、コロナなどの影響がない場合、年に一度スポーツ大会も実施している。	保健室はあるが、現状では設備的に不十分かと思われる。	メンタルケアが大切。オンラインでカウンセリングも一案。カウンセリング室の利用頻度を上げていきたい。カウンセラーへの接触のストレスを低減すべき	
□学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	提携マンション、提携寮を斡旋している。	現状で十分とは思われないが、学生の好みも多様化しているため、要検討課題。	要検討	

□保護者と適切に対応しているか	4	保護者には期ごとに成績表などを配布し、学生の現状を連絡している。また、出席不良の学生については、個別に保護者への連絡を行っている。	保護者も様々で、学生への無関心、あるいは全ての責任を学校に求めてくるなど、昨今は対応に苦慮する場合あり。	さらに保護者との連携を図っていく。	
-----------------	---	---	--	-------------------	--

(6) 教育環境

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	適宜、実習設備の改修を実施している。	教育課程編成委員会などの意見を参考に、各学科の実習設備をなるべく実勢に合わせたものに維持していく。設備面での学内生活の環境改善も必要。	左記に同じ。	
□学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	実習設備については上記のとおり。海外での研修プログラムについては、すでに8月に1か月間行う短期留学の実績がある（2019年度はアメリカ）。インターンシップについても、2019年はマレーシアとカナダで行っている（2020年度はコロナのため中止）。更に今後は別途のプログラムも検討中。	留学は、受け入れ先の企業ではあくまでプラスアルファの要素としてとらえており、留学をどうとらえていくべきか、検討の余地あり。インターンシップは①4か月間は語学学習、②4か月間は企業にて活動をする。語学力の習熟度によっては①から②へうまく繋がられない学生もいた。		
□防災に対する体制は整備されているか	4	校舎の耐震工事は済み、緊急時の食料と水を人数分備蓄している。防災訓練も実施している。			

(7) 生徒募集

評価項目	評定	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	接続する教育機関に対する情報提供は重要であり、学校説明会やガイダンス等を通じて行っている。	特になし	特になし	
□生徒募集活動は、適正に行われているか	4	学生募集には全教職員が参画意識をもって取り組んでおり、学生募集目標を設定し、達成することは学校運営上特に重要である。			
□生徒募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	在校生の資格取得や就職情報については、学生の承諾を得て実名や出身校を掲載し、正確な情報開示に努めている。			
□入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4	筆記試験ではなく内申書の確認で合否を決定している。 A0入学でサービス業の適性のある学生の取り込みを図っている。			

(8) 財務

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
<input type="checkbox"/> 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4	入学者の安定確保が財務基盤の安定には不可欠であり、全職員で同じ意識を持って取り組んでいる。 また、全国の2法人が合併し、1法人化したことにより、以前よりもさらに財政基盤の安定が図られた。	特になし	特になし	
<input type="checkbox"/> 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	収支予算の予測、支出状況の把握につとめ、バランスのとれた収支状況の実現に努力している。			
<input type="checkbox"/> 財務について会計監査が適正に行われているか	4	行われている。			
<input type="checkbox"/> 財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページ上に掲載している。			

(9) 法令の遵守

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	学校関係者評価	参照資料
<input type="checkbox"/> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。 また、コンプライアンス委員会を学園本部に立ち上げ、適切な運営を継続している。	特になし	特になし	
<input type="checkbox"/> 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	情報管理については、教職員及び学生の個人情報の取り扱いには最新の注意を払い、適正に管理を行っている。			
<input type="checkbox"/> 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	努めている。			
<input type="checkbox"/> 自己評価結果を公開しているか	4	ホームページ上に公開済み。			

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
□学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	3	特に行っていない。	地域に対する公開講座や教育訓練については、地域にとって必要かどうかも含め、今後の課題として取り組んでいきたい。	夜間の時間帯を活かした職業訓練実施の可能性を模索中。	
□学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	通常は学科によっては障害者スポーツ大会や聾啞の会などのボランティアに参加している。また、オリンピックのボランティアも予定していた。しかし、2020年度はコロナの影響のため実施していない。	地域のボランティア活動への参画を検討したい。	ボランティアの単位認定が継続的な取り組み課題となっている。取り組むべき課題である。	
□地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	3	特に行っていない。	要検討	HP 上で公開講座を募集するなども要検討	

(11) 国際交流

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	学校関係者評価	参照資料
□留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって国際交流を行っているか	4	適切に運営されており、問題ない。	特になし。	互いの価値観を尊重し、理解する必要がある。その一環として留学生と日本人をペアにした活動を検討中。	
□受け入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4				
□学習効果が国内外で評価される取組を行っているか	3	交換留学の実施を検討中。	海外の卒業生とのネットワークを構築する。		
□学内での適切な体制が整備されているか	3	国際センターを設置して対応している。	文化の違いにより授業態度に問題が見受けられる。異文化理解がこれまでに以上に必要。		